

谷山に在る。金澤町人金屋彦四郎は、額丹後の後系であつたが、その家傳に御廟谷の石碑二基は丹後・八郎四郎の墳であるというて居る。龜尾記には之を五輪塔三基として、富樫氏累世の塚といふと記して居るが、若し富樫氏本系の意であるならば、故らに野々市を離れた所に在るも解し難く、僅か兩三基に止るも訝かしい。金屋の家傳の方が正しいと思はれる。

**コピョウヤマ** 小屏風山 白山なる別山の頂上から西北御前岳に向かふ間に在る。標高二三四〇米。

**コヒラサハ** 小平澤 コヒラ 石川郡富樫庄に屬する部落。

**コブイケ** 癩池 珠洲郡瀧泉寺(部落名)にある池。その水で癩を洗へば必ず取れるといふ。

**ゴブイチ** 五歩市 石川郡中村郷に屬する部落。寛文十年の村御印には五部一とあり、その後五部市とも五分市とも書いたが、延寶五年の頃から五歩市と書上げた。

**ゴフクブギヨウ** 吳服奉行 寛文五年山下吉左衛門の命ぜられたのが始であらう。延寶五年轉役し、その代り渡邊助左衛門は元祿四年轉役し、同年岡田沖左衛門、十二年中村彌八郎が命ぜられ、以來兩人充連綿したが、安永五年三月には兩人共この役柄を免ぜられ、會所奉行から兼帯した。然るに九年十月十九日行山傳左衛門・原鹿太夫再び命ぜられて、以來また兩人充連綿し、文化八年七月七日江戸買手方御用兼帯を命ぜられ、替る々々一人充江戸へ詰めることになつた。次いで同年九月四日芝山彌右衛門が命ぜられ、こゝに於いて三人となつた。

**コブクロ** 小袋 羽咋郡給分の内の小字。

**コフジサン** 小富士山 鳳至郡納見部落の東南に在る山。高さ四二五米。地質輝石安山岩。

**コフタマタ** 小二俣 河北郡小坂庄に屬する部落。

**ゴフチニン** 御扶持人 ↓トラムラ 十村。

**コブナヤマ** 小鮎山 コブナ 珠洲郡大谷の部落から南方に當る山。

**コブンギヨウ** 小分校 江沼郡の能美境に屬する部落。明治中大分校と併せて分校となつた。

**コブンザツシユウ** 古文雜聚 三冊。森田平次編。加越能三州に關する諸種の古文書を見るに隨うて雜然蒐集したものである。

**コフンチヨウサ** 古墳調査 古墳の調査は、明治二年太政官が各藩廳に命じて之を行はしめたに起る。その目的とする所は、久しく世の知る所とならなかつた皇妃・皇子・皇女等の御墓を發見しようとするに在つた。

**コヘイダンザンノウシユウギヨクシユウ** 古兵談殘囊拾玉集 二冊。政春古兵談に倣うて、天正以來の諸合戦に武功を顯した古老の說話を輯録したもの。有澤永貞の反古裏に記して置いたのを、享保廿一年その子武貞が整理脱稿したとある。

**コベジマ** こべ島 鹿島郡能登島なる曲部の北方に在る島。

**コヘヌキムラ** こへぬき村 ↓コシバ 小柴。

**コホ** 古保 コホ 石川郡大野庄に屬する部落。一説に、古保は小府で、郡府の所在地であつたのであらうといふ。

**ゴホウジ** 護法寺 ↓ウタニジ 宇谷寺。  
**ゴボウシヨウカツ** 御坊正月 藩政の時、正月二十八日に業を休むことを、能登で御坊正月というた。親鸞聖人の命日に當るからである。  
**コボウス** 小坊主 ↓ボウス 坊主。  
**ゴボウノシヨウチ** 御坊の小路 金澤の舊町名。元祿六年の土帳に、出大工町御坊の小路とある。今の木倉町なる上宮寺の横小路をいふ。  
**ゴボウマチ** 御坊町 金澤の舊町名。小立野に御坊慶恩寺といふ眞宗寺院があり、その町内を御坊町と稱した。今は二十人町となつてゐる。  
**ゴボウマチ** 五寶町 金澤の町名。もと西御坊町とも西末寺町ともいうたが、明治四年四月今の名に改めたものである。  
**ゴボウヤシキ** 御坊屋敷 江沼郡今江領の畑の内にあつて、昔ちやせん寺といふ寺があつたといふ。  
**コホウヨソウ** 壺峰餘草 一冊。壺峰深山安良の詩集で、長短百廿一章が載せられてゐる。餘草といふのは陸渾詩鈔の拾遺であるからであらう。  
**コボガハ** 古保川 コボガハ 石川郡に在る。寶曆の調査に、額谷川・伏見川が米泉と西泉との領境で落合ひ、それより下流を古保川といふ。古保川は高島と古保との領境で才川に流入するといふ。  
**コホリ** 郡 ↓オコホリ 御郡。  
**コボリカツツネ** 小堀勝經 左兵衛と稱し、祿二千石を領し、御貸銀奉行を經、元祿七年

高山に番御馬廻御番頭を勤めた。寶永二年先簡頭となり、享保六年歿。

**コホリカンザブロウ** 郡勘三郎 父八承は三百石を領した。勘三郎之を襲ぎ、天和元年歿。それから四代勝左衛門信順のとき斷絶した。

**コボリサダアキ** 小堀定明 通稱左膳・牛右衛門。字を記政、號を芳洲といふた。父は牛右衛門永頼。正徳四年十二月廿四日生まれ、寛延元年四月新知二百石を受けて大小將・表小將となり、寶曆八年四月父致仕の後を受けて家秩二千石を襲ぎ、組外番頭より諸職に歴任したが、天明五年四月廿七日事に依つて遠慮を命ぜられ、八年四月廿七日七十五歳を以て歿した。異本謙徳公御夜話の著がある。

**コボリシゲマサ** 小堀重政 孫兵衛と稱し、小堀遠州の弟仁右衛門某の二男である。慶長三年前田利長に召出されて千石を領し、寛文六年先簡頭となり、寶永二年免ぜられ、正徳二年歿。子孫世々藩に仕へる。

**コボリシンジユウロウ** 小堀新十郎 小早川秀秋の家臣平岡石見守の子である。小堀遠江守政一の婿であつたから、その氏を冒し、前田利常に召出され、延寶四年歿。子孫世々藩に仕へる。

**コボリナガヨリ** 小堀永頼 通稱左内・左兵衛・牛右衛門。初諱勝順。實は伊藤内膳重澄の二子で、小堀勝經の養子となり、享保八年家秩二千石を襲ぎ、馬廻組に編せられ、小松町奉行・金澤町奉行を経て定番頭に至り、寶曆八年致仕して牛山と稱し、隱居料三百石を受け、明和二年十月四日八十二歳を以て歿した。永頼は龜山又は西園と號し、その居を幽